

道徳 学習指導案

宮口 真木子（授業者）

2

授業実践の記録と分析

道徳

1. 基本情報

- ・日時：2016（平成28）年9月7日（水） 第5校時（50分）
- ・場所：東京学芸大学附属小金井中学校 1年C組教室
- ・学年：第1学年 40名（男子20名，女子20名）

2. 主題名（教材名）

主題名「自主と自立」〈指導項目A - (1)〉

教材名「アキラの選択」（出典名「自分を見つめる」）

3. 主題について（題材について）

3.1 主題の特性（主題設定の理由）

(1) 教科からみた特性

本主題は、内容項目A - (1)「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」に基づいて指導するものである。本主題で用いる「自立」という言葉の意味は、自分の考えで物事を判断し行動しようとする精神的な側面からとらえたものである。

中学生になると、体の成長とともに自分で出来るが増えてくる。さらに、周囲の大人たちから離れて自立したいという気持ちが芽生え、自主的に考えて行動できるようになる。しかし、中学1年生では、自分の考えよりも他者の考えに流されて失敗したり、実行した結果を他人のせいにしてしまうことも少なくない。また、自分の考えに固執しすぎて他者の考えを受け入れられなかったり、自分と異なる意見を否定してしまったりすることもある。大切なのは、他者との関わりの中で自分と異なる意見にも耳を傾け、その上で自分の考えを持つこと、そして、自己責任の意識を持った上で自分の考えに従って判断・実行できるようになることである。学校生活、日常生活の一つ一つの事に対して自立した行動を取ろうとすることで、周囲と健全な人間関係を築き、周囲の環境がどうであろうと自分の意志で判断・行動することができる力を育てたいと思い、この主題を設定した。

(2) 汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

本主題では、自主的・自立的な判断をし、その結果に責任をもつことをねらいとしている。判断した結果に対して責任をもつには、まず、自分が判断した結果の先に起きることをきちんと見通すことが大切となる。そのためには、判断するための情報をきちんと集め、整理し、客観的に評価したり、様々な視点から考えたりできるようになることが大切である。また、道徳の授業の中では、他者の考えに耳を傾けたり、自分の考えや立場を明らかにして周りに自分の考えを伝えたりする場面は、まさに自分自身の自主的・自立的な判断がもとめられる場となる。これらの場面を通じて、他者の考えを受け入れる態度や、欲望や感情に流されない自制心、自分自身を向上させようとする気持ちを育てることにつながると考えられる。

このような主題の内容や授業の活動をふまえ、汎用的スキルの中では「批判的思考力」、「先を見通す力」、「伝える力」が主題のねらいと関連する中心的なスキルであるといえる。また、態度・価値育成の観点では、「他者に対する受容・共感・敬意」、「正しくあろうとする心」、「向上心」などを育てることができると考えられる。

3.2 主題の目標

(1) 主題の目標

他者に迎合せず自主的に考え、判断することを重んじ、その結果に責任をもつことの大切さを理解する。

(2) 汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた目標

①汎用的スキル

- ・与えられた情報、他者の考え、自分の考えに対して客観的に評価し、多面的・多角的に思考することができる〈批判的思考力〉
- ・自分の考えをわかりやすく、正しく伝えることができる〈伝える力〉
- ・自分の判断や行動の結果を予測し、それに基づき適切な判断をすることができる〈先を見通す力〉

②態度・価値

- ・他者の考えや意見、価値観を理解し、受け入れることができる〈他者に対する受容・共感・敬意〉
- ・物事に対して判断をする際に、欲望や感情に流されない自制心や道徳的に正しくあらうとする心をもつ〈正しくあらうとする心〉
- ・一人の人間としてより良い生き方や自分らしさを求めようとする〈向上心〉

3.3 生徒の実態

本実践の対象となる1年C組は、明るい学級で男女の仲がよい。また、まじめな考え方をもち生徒が多く、学級全体で議論する場面では話の本筋から外れることなく議論することができる学級である。しかし、個々で見ると、学級という集団の中で自分の考えをもち表現できるかどうかは個人差が大きい。また、入学当初に比べ行事を通じて互いの仲は深まったが、グループを作りある程度決まった人間関係の中で生活している生徒も少なくない。本主題のねらいにもあるように、生徒が学級の中でのびのびと生活できるためには、人間関係に引きずられることなく自分で判断し表現できる力をつけることが大切である。

本授業を通じて、自分らしさやより良い生き方を目指そうとする気持ちを大切にできる心、様々な立場から様々な意見が出てきたときに、まず互いの考えをきちんと受け止める姿勢を育てていきたい。そして、学級における一人ひとりの自立を高めるきっかけとしたい。

3.4 教材観

本教材「アキラの選択」は、自分の選択教科を選ぶことに対して、自分の興味のある体育よりも仲の良い友人と一緒にできる理科を選ぶようとする主人公アキラと、自分の興味のある理科を自主的に選ぶようとする友人とが対照的に描かれている。アキラは、友人と同じ教科になろうと判断して選択をするが、結果、アキラは理科になるが友人は理科になることはできず第2希望の社会となってしまう。アキラは、この時初めて自分の選択が生む結果に直面することになる。

この教材の選択の場面は「自分自身のこと」であり、部活動の選択、学級における委員会や係の選択、進路選択など、学校生活の中でも多く存在する場面であり、生徒にとっては身近に感じられる話であるといえる。ここでは、自分の興味や伸ばしたい力を見極め、自分の力を高めるための選択をすることが大切である。しかし、中学生の時期では、自分に自信がないと自分の考えをはっきりと示すことができなかつたり、友人関係に引きずられて判断してしまったりすることがある。アキラの選択の理由や、行動した結果に対する思いなどを考察させることによって、自立とはただ自分の好きなように物事を選択することではなく、自分の正しい価値判断のもと先を見通して自主的に判断すること、そして、実行した結果には責任を伴うということについて考えを深められるようにしたい。

さらに、この話の続きとして、「体育と社会に空きがあり、希望者はもう一度選択できることになった。あなたならどのような選択をするか?」と問う。選択肢は、A 体育（自分の好きな教科）を希望する、B 社会（仲の良い友人がいる教科）を希望する、C 何も希望しない、の3つを設定し、生徒一人一人に選択させる。ここではアキラの立場ではなく、自分の立場で選択をさせることによって、生徒自身がどのよう

な価値判断のもと選択をするのか、判断した先の結果をどのように見通しているのか、そして、結果にどのような責任を伴うのかを考えさせたい。

3.5 指導上の手立て

本時では、生徒に主題をより自分事としてとらえさせ、自分と向き合わせることが大切である。そして、その考えを集団の中できちんと明らかにしたり、他者の考え方を受け止めようとしたりすることが一人一人の精神的自立を促す一歩として大切なことであるといえる。このような観点に基づき、指導上の工夫として次の4点を挙げる。

1つ目に、「選択」をしたアキラが、その結果に直面した最後の場面でつぶやく「どうしよう・・・」という言葉に続く文章を考えさせた。この場面のアキラは明らかに困惑している様子は伝わってくるが、「何に対して」どうしようと考えているのかははっきりと述べられてはいない。例えば、「どうしよう、興味のない理科を一人で受けることになってしまった」「どうしよう、リョウタと一緒にいられなかった」「どうしよう、リョウタは理科になれなかった」などが考えられる。自分の価値観だけに当てはめて考えると一方的なとらえ方で収まってしまうことがあるが、様々な気持ちを読み取れることをここで共有させたい。また、ここからアキラは選択した結果を予想していなかったということも浮き彫りにさせ、自分の考えを持つだけでなく判断した先には結果もついていることに気付かせたい。さらに、この活動が次の展開で生徒一人ひとりが「自分の選択」をする際の「材料」として生かされることを期待したい。

2つ目に、本教材の話の続きを考え、課題を設定し生徒に選択させることにした。教材中の主人公の選択の意味を考えさせたいうえで、今度は「自分の選択」をさせる。そうすることで、初めてこの主題を自分事としてとらえ、課題に対して主体的に取り組ませることができると考えた。そして、「自分の選択」を通じて生徒一人ひとりが「自分の考え方」と向き合い、「自分の判断の結果」を見通させたいと考えた。

3つ目は、授業で選択肢を発表させる際に、挙手などではなく黒板に自分の名前のタグを貼らせるという形ではっきりと示させることである。これにより、自分が何を選択したのかを集団の中で明らかにできるとともに、学級全体でも共有することができる。

4つ目は、選択した理由を学級全体で議論する場面を設定したことである。個人の選択肢を示した上で、その理由を学級全体で発表させ、互いに質問させる。周りの考えと自分の考えを比較させることで、改めて自分の選択を見直させながら自分の考えを深めさせたいと考えた。

4. 本時

4.1 本時の目標

他者の考えに流されず自主的に考え、判断することを重んじ、その結果に責任をもつことの大切さについて理解を深め、自分の考えをもつことができるようにする。

4.2 評価を見取る視点とその姿（汎用的スキルや人間性の観点から）、見取る方法

評価の視点	
①汎用的スキル ・道徳的な判断を下す場面や話し合う場面で、与えられた情報、他者の考え、自分の考えに対して客観的に評価し、多面的・多角的に思考することができるか〈批判的思考力〉 ・自分の判断や行動の結果を予測し、それに基づき適切な判断をすることができるか〈先を見通す力〉 ・自分の考えをわかりやすく、正しく伝えることができるか〈伝える力〉	②態度・価値 ・他者の考えや意見、価値観を理解し、受け入れることができるか〈他者に対する受容・共感・敬意〉 ・物事に対して判断をする際に、欲望や感情に流されない自制心や道徳的に正しくあろうとする心をもっているか（正しくあろうとする心） ・一人の人間としてより良い生き方や自分らしさを求めようとする意志や行動への構えがどれだけ育っているか（向上心）

見取る姿	
・アキラの思いを多面的・多角的に思考することができる。また、発問2に対して、他者と比較して客観的に自分の考えを評価したり、同じ立場の意見であっても考えの根拠の違いを見出そうとしたりしながら思考している〈批判的思考力〉 ・自分の判断や行動の結果を予測し、それに対して責任を持つ覚悟で適切な判断をすることができる〈先を見通す力〉 ・ワークシートに自分の考えを文章でわかりやすく表現できているか。また、それらを集団の中で正しく伝えることができる〈伝える力〉	・発問2に対する異なる立場や意見に対して、理解し、受容している〈他者に対する受容・共感・敬意〉 ・自分で判断し選択する際に、自分の考え方や生き方を大切にしようとする心や欲望や感情に流されない自制心もっている〈正しくあらうとする心〉 ・一人の人間としてより良い生き方を求めて、自分の考え方をもち大切にしようとする意志をもっている。また、自立した姿と今の自分を照らし合わせ、これからどのように行動していくかその心構えを示すことができる〈向上心〉
見取る方法	
・授業中の発言 ・ワークシートの内容	

4.3 準備物

・資料「アキラの選択」 ・名前タグ ・ワークシート

4.4 本時の学習指導過程

時配	学習内容と活動	指導上の留意点・★評価
導入 5分	①「精神的な自立」という主題に関心を持つ。 ○中学生になって、小学生の頃と比べて自分が「自立したな」と思うことを思い浮かべる。 ・自分でできることや任されることが増えた。 ・家事を手伝うことが増えた。 ○私（教師）は自立していると思うか。 ・思う。自分で働いて生活しているから。 ○自立には経済的な自立と精神的な自立の2つの側面がある。精神的に自立している人とはどういう人のことをいうのか。 ・自分の意思を貫ける人 ・目標をもって実行する人 ・周りに流されない人 ・自分のことを自分でできる人	・「自立」の意味のうち、精神的な自立について着目させる。 ・「精神的な自立」について生徒がどのようにとらえているのかを共有させる
展開1 15分	②「アキラの選択」を読む。 ○発問1：『「どうしよう…」』と言って『頭の中が真っ白になった』アキラの「どうしよう…」の続きを考えなさい。 ・どうしよう、リョウタと一緒にいられなかった。 ・どうしよう、リョウタは理科になれなかった。 ・どうしよう、苦手な理科を一人で受けなければいけない。 ・どうしよう、自分が理科になったと言ったらリョウタはどう思うだろう。 ・どうしよう、こんなことになるなんて考えてなかった。	・選択教科の意味が分からないようであれば補足説明する。 ★アキラの心情を様々な視点から考えられているか〈批判的な思考力〉 ・アキラの心情はどれもマイナスな感情であること、結果に対して予想できていないことやアキラにはそれらを受け入れる心の準備や覚悟がなかったことを浮き彫りにさせる。
発問2：この後、体育と社会に人数の空きが多かったため、希望者は2つの教科のどちらかを希望できることになった。あなたがアキラなら、次の3つの選択肢の中からどれを選択するか。 A 体育を希望する B 社会を希望する C 何も希望しない		
	○ワークシートに選択肢とそれを選んだ理由を記入する。 ○自分が選択した番号に自分の名前タグを貼る。	・体育は自分の好きな教科、社会は仲の良い友達がいる教科であると考えて選択させる。

展開 2 20 分	③選んだ理由を学級全体で発表し合う。 A 体育を希望する ・自分の好きな教科に取り組んだ方が自分にとってになると思うから。 ・このまま理科にいても友人がいないのでは楽しくないから。 B 社会を希望する ・友達一緒に受けた方が楽しい。 ・友達がいる方が自分は伸びる。 C 何も希望しない ・自分が選んだものなのだから最後まで責任をもってやるべきだと思うから。 ・他に移動したら、理科になれなかったリュウタやほかの人に申し訳ないと思うから。 ○発表中に気になった内容や後で質問したい事柄などはワークシートにメモとして自由に記録させる。 ○互いに質問させる。 ・①②を選んだ人は、リュウタにそのことをどのように説明するのか。 ・③を選んだ人は、自分が好きな教科を選ばないでいて後悔はないのか。 ○A～Cの選択肢を選ぶときに、どのようなことを考えたか、どのようなことを大切にしようと思ったかを振り返らせる。そして、選択した先に起こることを見通し、その結果に責任を持つとできたか問いかける。	★自分の考え方や生き方を大切にしようとする心や欲望や感情に流されない心を持っているか〈正しくあろうとする心〉 ★選択した先の結果を見通して判断しているか〈先を見通す力〉 ★自分の選択の理由をわかりやすく記述できているか。また、発表できているか〈伝える力〉 ★他者の考えをその立場に立って共感的に受け止めているか〈他者に対する受容・共感・敬意〉 ★他者と比較して客観的に自分の考えを評価したり、同じ立場の意見であっても考えの根拠の違いを見出そうとしたりしながら思考しているか〈批判的な思考力〉 ・生徒が選択した結果の先を深く考えていない内ときは、教師が質問を投げかける。
まとめ 10 分	④本時のまとめ、振り返りを行う。 ○発問 3：あなたがこの時間で発見したことは何か。 ・自立というのは、自分の考えをきちんと持って行動できることと、その結果に対して責任を持つ覚悟も必要だということ。 ・今の自分は～で、自立していると思った（していないと思った）。 ・これからは、～な時に・・・のように考え、判断できるようにになりたいと思った。 ・～さんは、・・・な考え方を持っていることを知って驚いた。	★自分の考え方を大切にしようとする意志をもっているか。また、自立した姿と今の自分を照らし合わせ、これからどのように行動していくかその心構えを示すことができているか〈向上心〉

4.5 板書計画

今日のテーマ…自立とは
アキラの選択

①「どうしよう、～～～～」

②体育と社会に人数の空きが多かったため、希望者は2つの教科のどちらかを希望できることになった。

あなたの選択

③あなたがこの時間で発見したこと

C 何も希望しない

B 社会を希望する

A 体育を希望する

名前タグ

名前タグ

名前タグ